

平成28年度

# 第1回学校評議員会議

学校評議員（外部評価委員）

北海道社会福祉事業団白糠学園長 高井準人 様

白糠町教育委員会指導室長 中岡美緒 様

白糠町保健福祉部福祉課長 下重哲也 様

北海道教育大学釧路校准教授 小淵隆司 様（欠席）

北海道白糠養護学校 PTA 会長 上西春美 様

## 概要

1 日時 平成28年7月13日（水） 10:00~12:00

2 場所 北海道白糠養護学校 会議室

3 日程等

校長挨拶

(1) 出席者の紹介

(2) 日程説明

(3) 評議内容

①平成28年度学校経営方針について

②具体的な取組について

③授業参観

(4) 第2回学校評議員会議の予定について

(5) 校長挨拶

白糠養護学校学校評議員議事録（要旨）

平成28年7月13日

校長挨拶：評議員に参加いただきありがとうございます。本校概要の説明と、子供たちの様子を見ていただいて忌憚のない意見をいただき、本校の教育に生かしていこうと思いますのでよろしくお願いします。

※学校長より「平成28年度学校経営方針」について説明

※教頭より「学校経営方針を受けての具体的な取り組み」について説明

（教 頭）：学校へのご意見等を評議員の方々からお聞きしたいと思います。

（上西氏）：心肺蘇生など、先生方が受講している救命講習についてお聞かせ下さい。

（校 長）：消防署に協力いただき、普通救命講習を夏季休業中に教員等が全員受けています。まず第一に児童・生徒の安全を考えており、それは先生方にも意識してもらおうようにしています。3年前は、緊急時にも教頭がいないと学校組織が動かない状況だったので、もしもの時には職員誰でも対応できるようにアクションカード制度を導入するなどの改善を行いました。

（上西氏）：救命講習はこれからも先生方が繰り返し受けさせるようにしてほしいです。

（上西氏）：今までは、小・中・高の各学部の連携がとれていない様子が見えました。これから連携がとれていくなれば望ましいです。

（上西氏）：先生方の研修ですが、初任段階の先生だけでなく、初任の先生を指導する先生方もその立場相応の研修を受けているのでしょうか。

（校 長）：夏季休業中などに、個別に色々な研修を受けてもらっています。

（教 頭）：初任段階の教員を指導している先生には指導する力量があると思っています。本人たちも、教頭が指導する研修を見学するなどして指導方法について各自研究しています。

（上西氏）：釧路市内の大型商業施設の死傷事件を受けて、不審者訓練をうけていると聞いています。質問ですが、校舎内では「さすまた」がありますが、そのようなものがない校外学習時等での不審者対策について、どのような訓練内容であったのか教えて下さい。

（教 頭）：警察署員の指導では、基本は「逃げる」。不審者には絶対という特徴はありません。対策としては、非常口を把握しておく。万が一の状況に遭遇した時とはとにかく声を出す。身の回りのかばんを振り回すなどで時間を稼ぐ。というアド

バイスがありました。

(校長)：教員を児童・生徒たちの前と後ろに配置し、一部隊列で行動させるのが望ましいとのこと。

校内の安全ですが、防犯カメラなどを有効に活用し、非常時は迅速に玄関を施錠するなど対策を万全にするよう心掛けています。近隣でこのような大きな事件が起りましたが、時間が経過しても事件の記憶を風化させずに生徒の安全の意識を継続できるようにします。

(教頭)：その他ご意見はありませんでしょうか。

(中岡氏)：初任段階研修の計画を拝見したが、大変きめ細かくて感心しました。町内の小・中学校でも参考にしたい。

(下重氏)：学校経営方針に「プロ意識の高い教師」とありますが、プロ意識が大切というのは、どこの組織でも重要だと思います。管理職だけでなく、職員全員で一歩二歩前進するのが重要。それが福祉のおもしろいところでもあると思います。一人で100歩進むのではなくみんなで一歩進む。

(高井氏)：異性の児童生徒への教員への対応・ルールについてお聞きしたい。

(校長)：基本的に同性の職員が支援することになっているが、特に小学校低学年については、スキンシップが重要であるため若干原則どおりにしていない場面があります。特に視覚障害を持つお子さんにとっては「触る」ことが重要です。また、特別支援の教員の男女比は、現在女性の方が多いです。それに比べ児童生徒の方は、男子が増える傾向があります。本校では男性教員は高等部に厚く配置しており、そのため他学部は女性教員が多い傾向となってしまうています。なかなか難しいところはあります。

15歳以上は社会に出た時のことも考え、できるだけ同性支援としています。一般論ですが、今後性同一性障害の児童生徒が入学した場合、配慮する必要があるでしょう。

(校長)：障害者差別解消法は本年4月施行されたばかりで、きめ細かな部分は当事者の意見も聞きながらこれから変わっていくと思われれます。

(上西氏)：訴えられない子供の気持ちは教員なり保護者が読み取らなければなりません。しかし、手助けのやり過ぎはいけない。主体性を引き出す指導をしなければなりません。

(校長)：子供のアクションを待つ姿勢が重要です。

(上西氏)：キャリア教育でもよく言われているが、子供は先生方に褒められてもあまり伸びないそうです。友達や仲間から褒められる方が伸びるとのことです。

(校長)：本校は教職員が多いので、安全確保等で必要な時以外は意図して教室に入れる職員数を減らしています。教員だけでなくクラスメートや他の学年の児童生徒と接触する機会を増やすためです。

(教頭)：学校設定目標でもあり、外部の方と繋がって行くことが重要です。教員にもそのように意識付けしています。白糠町教育委員会さんとも連携し、ともにプラスになるような繋がりができればありがたいです。駒おどり保存会さんなど、他団体とも連携するなど貪欲に他と繋がるようにしていきたいと思います。

#### ※授業参観

(教頭)：まだまだ足りないところはありますが、少しずつ先生方の授業も改善しています。授業研究等で得た知識を授業でフィードバックして使えるようにしていきたいと思います。

(上西氏)：先生方には先生方自身の将来も見据えて指導方法を強化していただきたいです。

(校長)：時代とともに環境も変わっていくので、子供たちが20歳になった時をイメージして教育する必要があります。

(上西氏)：知的障害者の高等部の入学選考の基準が変わったそうです。その時代の状況に合わせ、指導方法を変えていかなければならないと思います。

(校長)：発達障害の世間的な認知度が上がったためか、高等養護学校普通科のニーズが増えてきました。教育委員会では「地域で通える学校」という方針で広げてきています。子供に合わせた教育をすることが一番大切なことです。一人一人に合わせた教育を徹底することが大切です。

(上西氏)：他の特別支援学校の説明会の参加者を見てもわかるとおり、特別支援教育の変革に対する保護者の関心は高いです。

(校長)：確かに、10年後を見据えて動いている状況です。

(上西氏)：パラリンピックなど、身障者スポーツも注目を集めています。本校の生徒からもそのような者が出たらいいと思っています。

校長挨拶：本日は子供たちの様子を見ていただきありがとうございました。子供たちがこれから先生たちと共に成長していく様を見ていただき、12月に開催されます第2回評議委員会でそれに関してご指摘をいただけますと、本校にとって伸びるチャンスとなりますのでよろしくお願いします。